



## たくさんのアイデア ありがとうございました。

ほんまに  
おおきに！



前号で、来年度の「北近畿探訪講座」のテーマ設定にあたり受講生のみなさんからの情報提供をお願いしたところ、たくさんの情報を寄せていただきました。ありがとうございました。やはり現地での見学講座のご要望も多く、できるだけ取り入れたいと考えています。「北近畿」というとかなり広く、訪ねたいところはたくさんありますが、一方で、今年度の講座でも福知山・綾部からやや遠方になると参加しにくくなるようで出席率が下がっています。公共交通が利用しにくかったり、マイカーで移動できる人でも遠出はちょっと不安…な方も多いかと思えます。

今、みなさんから教えていただいた情報を基に、見学を受け入れてくれるかどうか、会場までの移動手段をどう確保するか、提案頂いたテーマで講師を受けてくれそうな「その道の人」探しなど、問い合わせ・検討を重ねています。2025年度に実施できなくてもまた次の年度になど、みなさんからの情報を活かして検討していきます。ありがとうございました。

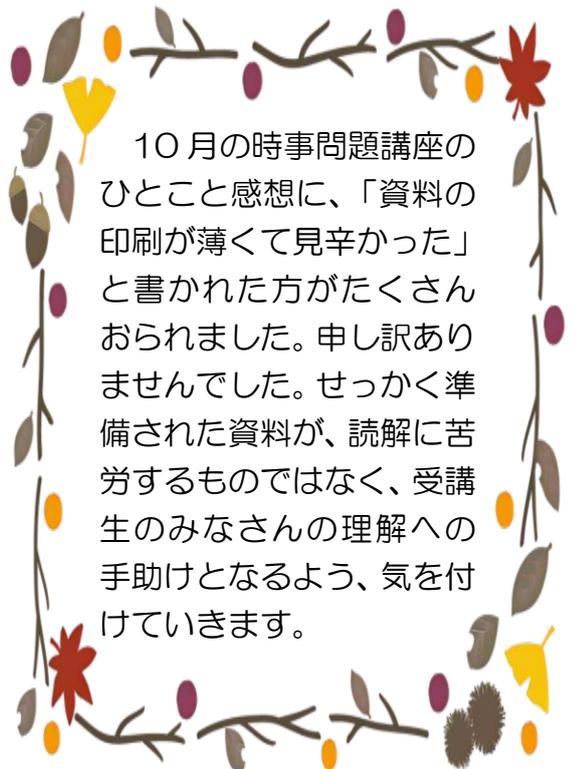
### 振替受講増えて、うれしい悲鳴！？

今年度の開講日も少なくなり、振替受講で出席される方が増えています。制度の活用をお勧めしてきたので、大変うれしいです。ただ、予想以上に多く参加していただいて、準備した資料が不足するかも…ヒヤヒヤの講座が増えてきました。

できるだけ事前に  
「振替受講希望」をお伝えください

そこで、振替で受講希望の方はできるだけ1週間程度前にその旨連絡いただくと助かります。また、会場や開催日の変更がないかもご確認ください。よろしくをお願いします。

事務局（☎080-2511-1751）



10月の時事問題講座のひとつ感想に、「資料の印刷が薄くて見辛かった」と書かれた方がたくさんおられました。申し訳ありませんでした。せっかく準備された資料が、読解に苦勞するものではなく、受講生のみなさんの理解への手助けとなるよう、気を付けていきます。

# 10月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも  
あります。ご了承ください)



## ◆時事問題講座 10月1日

### 「男女を問わず性被害問題」 講師:高木野衣氏

講師は京都弁護士会の「両性の平等委員会」の副委員長をされているということで、性被害について多面的に話をしていただきました。

講義は主に「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」が内閣府からの委託で調査したデータを参照しながら進められましたが、法令上の位置づけなど、法律家の視点でなければなかなか意識しないであろう内容もあり参考になりました。

まず、性暴力とは人権侵害であるということ、そして年齢、性別にかかわらず、また、夫婦間など身近な間柄であっても起きうる問題であることが強調されました。

次に刑法は性被害・性加害をどう扱ってきたのかという話。明治40年の旧刑法が近年まで実態に合わないまま放置されてきたが、平成29年・令和5年の改正により男性も被害者となること、性交同意年齢の引き上げなどの変更があり、少しずつではあるが好ましい方向に向かっているとのこと。

最後に性被害・加害をなくすためにどうすればいいのかということで、年齢早期に正しい性教育を行う、傍観者にならないための啓発を行う、ジェンダーバイアス(男・女はこうあるべきという意識)を無くして行くということが大切であるとの提示がありました。特にジェンダーバイアスについては、私たちが常に意識していなければいけないと再認識させられた講義でした。

性被害の認識は少しずつ高まっているが、逆に隠したい知られたくない、公の場では全てを話さなければならないなど、ハードルはまだ高い。法律の整備はもちろんだが、やはり意識の課題が大きいと感じる。

「性被害」というナイーブな、タブーな問題をテーマにさせていただいて久しぶりに考えさせられました。

お話はよくわかりましたが、ハラスメントについては大変難しいと思います。相手がハラスメントと言えそうになってしまう。話をするにも、する方は大変気遣い、労力を要するので思っても言わない方が楽だと・・・

## ◆寄席芸鑑賞講座 10月10日

### 「上方歌についてのお話を聞き上方歌を楽しむ」

講師:松浪千粋氏

松浪千粋さんを講師にお迎えし、寄席囃子について詳しくお話を伺いました。出囃子の「梅は咲いたか」や、はめものの「伊勢音頭」、踊りの「かつぼれ」など、各要素に分けて丁寧に説明していただき、興味深く聞くことができました。そして何より印象に残ったのは千粋さんの三味線と唄の素晴らしさです。大会議室がまるで日本の高級なお座敷に変わったような、優雅で落ち着いた雰囲気に入れられ、受講者みんなその音色に魅了されました。

説明をしっかりと聞きながらも、千粋さんの三味線と唄を楽しんだ贅沢な時間を過ごしました。また、「日本人が持つ滅びの美学や、唄が祈りであり、弱いものに味方し鎮魂する」という千粋さんのお言葉が特に心に響きました。曲には歴史や時代背景があり、そのリズムには土地や人々の思いが込められていることを知り、これまで感じたことのない新たな視点を得ることができました。この講座を通して、寄席囃子の奥深さと日本文化の美しさを改めて実感しました。



出囃子編、はめもの編、踊り編と分けて十分に楽しませて貰いました。資料もあり、大変良かったです。

三味線、三弦でいろんな情景を表現されるのはすごいなあと感じながら聞き入りました。

三味線の音色(おんしょく)が、心地良かった。

◆写真講座 10月15日

「香りまで写すつもりで」—満開のバラ—

講師：四方智基氏

まずは綾部・日東精工アリーナで座学。前回の写真を少し振り返り、本日のバラ撮影のポイント解説。同じ花でも、撮る角度を変える、上から下から後ろから。絞りを変えてみよう、背景をぼかすと花色がスッキリ。手前の花をぼかしても good! 花ばかりに気を取られていると背景に思わぬ邪魔物が写ることもあるから注意。さあ、失敗を恐れずバンバン写そう!

ということで、徒歩5分足らずの綾部バラ園で撮影会、バラまつり開催中。場内をウロウロしながらお気に入りの花を探します。先生が持ってこられた水晶玉を使った撮影にも挑戦、上下(左右も?)逆さまに写るようですが、玉の中のバラ、仕上がりが楽しみです。10月と言えどかなり蒸し暑い日でしたが「そろそろ戻りましょう」と声かけてもまだあちこちでパシャパシャ、みなさん粘ります!

思った以上に暑くて大変でした。ピントがなかなか合わなかったり、体勢が辛かったりと苦労しました。苦労しただけの写真が撮れていればうれしいですが...

バラは色とりどりきれいに咲いていてチャンスでしたが、撮る方はいつまでたっても進歩せず...

絞り、SS、ISOなどのアドバイスをいろいろ受けて、大変参考になりました



◆歴史講座 10月16日

「舞鶴引き上げ記念館の見学と説明」

講師：舞鶴引き揚げ記念館 本郷氏

今回の講座は舞鶴市平の「引揚記念館」で行われ、前半は引き揚げの歴史の講義を聴き、後半は語り部の方の案内で館内展示を見学しました。

引き揚げとは、昭和20年の終戦でアジア各地に残された日本人が一斉に帰国することであり、その数は660万人という世界史上類を見ない民族大移動でした。引揚港は当初18港ありましたが、昭和25年からは舞鶴港だけが国内唯一の引揚港となり、昭和33年の引揚業務終了までに延べ346隻、約66万人もの引揚者を受け入れました。舞鶴港へは満州方面からの引揚者が多く、さらに終戦間際に日ソ中立条約を破棄して満州に侵攻してきたソ連軍によってシベリアをはじめソ連領内に連行された日本兵や民間人が想像を絶するような過酷な抑留生活を強いられ、長い年月を経てようやく帰国できたという人々もたくさんいました。

館内には、引揚船の模型や赤紙、千人針といったものの他に、シベリア抑留者が暮らしたラーゲリとよばれる強制収容所の様子が具体的にわかるような工夫がたくさんありました。収容所全体の模型、実物大の部屋、わずかなパンを仲間と分ける様子、丸太のレプリカなどです。有名な白樺日誌もありました。何よりも胸を打つのは、家族との再会を喜び帰国者の笑顔や岸壁に立ち尽くす母子、温かく出迎えた婦人会など舞鶴市民の写真、帰国情報を葉書で送り続けた人の紹介などで、まさに戦争の辛い記憶をまざまざと再現しています。

これらはユネスコの世界記憶遺産に登録されましたが、ロシア=ウクライナ戦争やイスラエル=ガザ紛争など国際平和が声高に叫ばれている今こそ、その役割はますます大きくなってきているのではないのでしょうか。

引揚というとシベリア引揚のイメージが強かったがそれ以外の引揚者や他地域のことでも知ることが出来て良かった。うろという犬が実在し日本まで戻ってこれたこともはじめて聞いた。また、岸壁の母の話も今の場所でないところにあったということも意外でした。

とても時間が足らず、概要は分かりました。又ゆっくり来たいと思います。

◆漢字学講座 10月24日  
「順番の漢字」 講師:久保裕之氏

今回は数字を表す漢字の講義。

\*音読み

昔の中国でのかぞえかた

- 1 一 イチ
- 2 二 ニ
- 3 三 サン
- 4 四 シ

省略

10 十 ジュウ

\*訓読み 日本でのかぞえかた

- 1 一 ひとつ
- 2 二 ふたつ
- 3 三 みっつ
- 4 四 よっつ

省略

10 十 とお

11 十一 とあまりひとつ

\*訓読み 日本でのかぞえかた

- 10 十 とお
- 20 二十 はた
- 30 三十 みそ
- 40 四十 よそ

省略

80 八十 やそ

100 百 もも

\*訓読み 日本でのかぞえかた

1000 千 ち

2000 二千 ふたち

3000 三千 みち

4000 四千 よち

省略

10000 万 よろず

8000000 八百万 やおよろず

例)萬屋錦之助(よろずやきんのすけ)

山口百恵(やまぐちももえ)

\*数の単位(中国)

一 十 百 千 万 億 兆 京...

\*数の単位(中国)・・小さい単位で

日本では野球で使われている。

分 厘 毛 忽(たちまち) 微(わす

かな)(繊維) 沙(水辺の砂) 塵(ちり)

埃(ほこり)

\*十 千・十二支

甲 乙 丙 丁 戊...

子 丑 寅 卯 辰 巳 午...

古代より、人間は数をどう漢字に置き換え表現してきたのか!

先生も今回の講義が一番難しいと言われました。



とにかく楽しい。何故こんなに楽しいかと考えてみると、当たり前に使っていた漢字の起源がわかり、すぐ忘れるけど、「瞬間のガッテン!!」の繰り返しではないかと思います。

仏教の、数の単位には驚いた。昔から使われている、数の漢字の移りかわり面白い。

数を何とは無しに読み書きしているのが、こんなにも深い深い意味があることに驚きました。

◆北近畿探訪講座 10月23日

「クマなど野生動物の保護・管理と被害への対策」

講師:中島彩季氏



こういう会社があることを初めて知った。興味深いお話でした。ゾーニング管理、行政の役割が重要。ヒトにも動物にも良い環境を。

野生動物の生態を知るのは面白い。ただ、被害を防ぐのには諸々の努力が要ということも知った。自分の家の庭でも野菜くずの埋め方等、注意しようと思う。

何気なしにニュースなんかで熊出没を見ているのですが、具体的に統計を取ったり管理してそれに対する対策を講じたりしている社会の仕組みがあり、それに従事されている方のお話が聞いて大変興味深かったです。

近年、獣害・獣遭遇などの出来事が多発しており、私の居住地でもクマの目撃情報が行政から月に数回以上は出されている状況です。本講座ではそうなった要因や対策を、動物たちの生態や特徴も含めて話してもらいました。ただ、関係機関の方々の努力にもかかわらず対策には今のところ決定打となっているものはないとのこと。クマ、イノシシやシカたちも学習能力はあるし、山での食料調達環境(動物たちの)が悪化していることもあり、人間の生活構造の変化と相まって、動物たちに対する向き合い方がむずかしくなってきたようです。

講義の中で、クマの着床遅延という、受精は栄養が充分なときに行い不十分なら先に延ばすという適応力には感心させられました。また、実際に体験したことです。シカは人間も含む外敵と遭遇した時2m高の柵も飛び越えますし、イノシシは鼻の力で50kgはあると思われる石を動かした跡を見学してもらいました。更にシカは落ち葉も食すると聞き、したたかさも持っていることがわかりました。これら動物たちの一面を見ていると、簡単に駆除すれば済むという相手ではないようです。

結びで、クマ・野生動物と対峙するには、継続した労力と、今後地域がどうしたいのか、それをどう支えていくのか、これらが問われていると課題を付けられました。